

大原総合花き市場（大原幹夫社長）は京都府南部総合地方卸売市場（宇治市）の開場に伴い、昭和63年に花き部卸業者として入場。鉢物、切り花、苗木、植木等、花き類全般を取り扱う総合市場

は時代を先取りした独自のシステムを使用していながら時代の変化に合わせ、新システムとしてパーソナル情報システムの「花きクラウドシステム」を2月から稼働させた。従業員からも顧客からも好評を得ている。

京都・宇治は時代を先取りした独自のシステムを使用していながら時代の変化に合わせ、新システムとしてパーソナル情報システムの「花きクラウドシステム」を2月から稼働させた。従業員からも顧客からも好評を得ている。

京都・宇治あるものの念願のWEBハンディターミナル機器の活用等、幅広く業界のニーズが取り入れられ、効率的な運用ができる。ハンディ端末利用による現場でのバーコード管理は作業時間削減に役立ち、手書きであったミスも減少している。

事務作業も軽減されたり、業務の省力化がでていて、従業員が早く帰れるようになつた。また営業日に対する従業員の意識も変わったことでも大きいといふ。

導入してまだ日が浅いため馴染んでいく段階。今後はますWEB顧客の稼働率アップによる前売り額の増加や単価の高値安定化、それに付随したデータ化や大手集約が進む中、中小零細市場の生き残り策として同システム利用市場同士のシステムリンクによる業務提携も考えていきた

いとしている。

大原総合花き市場

念願のWEB取引開始

京都・宇治

地元企業の旧システムは花き関係の利用者は同社のみでWEB取引など

として、京都府内一円はじめ、滋賀県、大阪府北部奈良県北部等の花き関連業者を取り扱いをして、生産者と販入とをつないでいる。これまで同市場でここまで同市場で

対応が困難だった。システムの更新時期だったことから新システムの導入となり、新システムにしており、新システムには豊富で、WEB取引が豊富で、WEB取引や



大原総合花き市場外観

同市場のセリ風景